

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600331		
法人名	有限会社 ナチュラル.ライフ		
事業所名	グループホーム宝寿		
所在地	〒437-1101 静岡県袋井市浅羽64-4		
自己評価作成日	平成25年6月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?acti_on_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=227
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡県葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成25年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『尊厳のある、その人らしい、穏やかな生活』をケア理念に掲げ、たとえ認知症になっても最期までその人らしく、家庭的環境の中で生活して行けるよう、常に相手の立場に立って考えられるように努めており、利用者やご家族との関係作りも大切にしていきながら、個別支援が行えるように取り組んでいる。
また、高校生の介護現場実習や中学生の職場体験の受け入れ等やその他協力機関と連携体制も整備し、多面的な支援が行えるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

袋井市浅羽地区に広がる田園地帯の一角に位置するグループホームです。事業所は県西部を中心とした介護施設グループの一員で少人数の家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく、そして豊かに」生活しようというグループホームの目標を目指しており、管理者を中心にホームの中は、穏やかな笑顔で満ちています。このところ職員は年齢の若い人が多いのですが、利用者一人ひとりに寄り添う気配りに努めており、グループ理念の「関わりの7原則…いつも笑顔でそばにいる…など」を実践しながら介護支援を続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ケア理念」「関わりの7原則」を事務所に掲げている。いつでも目に来る所に設置することで、意識を持っていられるようにしている。	事業グループ全体で「ケア理念」「関わりの7原則」を掲げ日常的に実践しています。このところ、年齢の若い職員が多く、利用者との「なじみづくり」に気配りをしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事へ参加している。	浅羽地区の自治会に加入し交流を深めています。秋祭りには祭り屋台もでて駐車場で「子ども踊り」が披露されます。事業所も全員見物参加でにぎわいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生介護現場研修や中学生の職場体験学習の受け入れをしており、事前に「認知症の支援の仕方」などを分かりやすく話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、日々の生活の様子、情報交換やサービスの質の向上に活かせるように努めている。	会議には市役所と地域包括が交互に出席するなど活発です。情報交換は防災関連が多いようです。近隣の介護事業所と相互交流で会議に出席し合い情報取得に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務連絡等においても、電話連絡だけではなく、可能な限り、窓口に出向き協力関係が築けているように努めている。まだまだ関係が薄い部分もあるため、今後も積極的に取り組みたい。	市担当者とは、密接な関係を持っています。最近、生活保護者の入所などで情報交換や関係づくりを深めています。またケアマネジャーの会合は、全市的に行われ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかしすべての職員が深い意識を得るまでは至っていない。今後も意識の向上に努めていきたい	玄関は、日中は施錠せず、センサーを設置しています。身体拘束をしないケアの徹底のため、職員全体の研修会を開く予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、着替えや入浴時にあざや傷がないか身体の様子を確認すると共に言葉使いなど職員間で注意し合えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶように施設内研修を行ってきたが、職員のすべてが理解しているかはわからない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を取った上で説明し、理解して頂けるように努めている。まだ家族からの意向や心配ごとなどを含め話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡を通し入居者様の様子を伝えながら、ご家族の要望・意見などを聞くように努めている。	体調の変化などをご家族に報告したり、寝たきりの人には、家族の要望で皆の声が聞こえる広間の和室で過ごしてもらうようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少しでも顔を合わせ普段の様子を確認できるよう努めている。また、職員の想いや悩みを共有し、必要に応じて個別面談等も行っている。	年3回、各人の「年間目標」確認の面談時に意見要望を聞いています。ここでは、使い勝手から大型炊飯器の小型化が取り入れられました。その他日常的な声掛け支援を勧めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を設け、状況を把握し職員の誰もが働きやすい環境になるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の状況に合わせた内部研修や外部研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との定期的な意見交換や職員交流等あまり出来ていない。サービスの向上させていくように交流活動が出来るように取り組んでいきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、本人のこれまでの生活状況についての情報収集を行い、何が課題であるのか明確にしていきながら、マイナス面ばかりではなく、本人にとっての安心材料は何か探り、不安を少しでも取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事務的な説明ばかりを行うのではなく、御家族それぞれの状況や性格等を把握し、想いを打ち明けられるような雰囲気作りに努め、伝え方にも注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人と御家族の双方の想いにしっかり耳を傾け、早急に対応が必要なものと、時間をかけ支援していくものとを区別し、職員同士での情報交換もこまめに行いながら統一した対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「してあげる介護」ではなく、あくまでも主体は利用者であり、利用者の生活の場であることを理解し、共に暮らしていく事を様々な形で伝えていけるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と共に利用者の生活を支えていくことをきちんと理解し、また御家族にも協力して頂けるよう、常に利用者・御家族の立場になって考え、可能な限り想いを形にしていけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	『認知症の人だから』ではなく、「その人」として捉え、利用者がこれまで大切にしてきた場所や人との関係が保たれるよう、必要に応じ御家族にも協力を依頼している。また職員がフォローできる体制を作るなどして支援に努めている	関係継続の支援で、お墓参りや仲良しグループの訪問、かつての美容師の面会などを勧めています。職員には入所者の生活史などの資料を活用するよう指導しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場である事で、それぞれの生活スタイルに戸惑いを感じている様子も見られるが、共に暮らしていく大切な人たちであることを繰り返し伝え、認め合い支え合える部分を見つけられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、いつでも訪問して頂けるように連絡や相談できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の生活歴を把握し、ご本人の希望や意向をくみ取れるように努めている	各人の意向の把握は、入所者の些細な言動を見逃さないようにと指導しています。また若い職員との普通の会話から「思い、意向」のヒントがあるといいますが、多くはその場限りの発見、意見に止まっているようです。。	事業所では、「入所者の思い、意向」を継続的に「把握」したいとしています。「朝の連絡ノート」の更なる活用と「各人の情報の共有」に期待したいものです。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等の情報収集を行い、入居後もご家族やご本人から情報を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録ので職員全員が、生活状態を把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人や表情や言動の原因把握に努め、意見やアイデアをだし合いながら介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは、ケアマネジャーが中心となり作成します。現状、情報が古くなっているため月末をめぐりに再プラン中です。そして職員、ご家族の意見を反映させるよう計画中です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に表情や言動など細かな事まで情報を記録し、職員間で共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	目の前にいる利用者との向き合い何が必要であるかを考え、家族のその時の状況にも配慮し、様々な意見を取り入れていく事で物事を柔軟に考えていけるようにし、サービスの幅を広げていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が有効活用できるよう、職員自身がその特性を理解し、利用者がここで暮らしている事を感じられるよう様々な形で伝えていく努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、かかりつけ医についての意向を伺い決定している。事業所協力医に変更される場合には、以前と変わらない医療が提供できるよう、協力医師、御家族と話し合いながら進めている。	入所時にほとんどの人が、協力医に変更します。事業所では、訪問看護所と契約しており、日常のバイタルチェック等を実施しています。職員の中に2名～3名の医療支援担当者を置き医師、看護師との情報共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護の視点から見る状況変化や気付きの中で、医療的範囲に関わる内容についての情報を共有できるようにしている。また、看護師との連携がスムーズに取れるよう医療支援担当者も配置し、情報経路の統一も図り、介護と医療のバランスが保たれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時においては、病院関係者とスムーズに状況確認等行えるよう、こちらから病院へ出向き、直接話し合う機会を設けている。万が一入院した場合に備えての関係作りには至っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応方法をあらかじめ確認していく中で、今後についての意向も一旦は確認させていただいている。また、利用者の身体状況に変化がある時には随時報告し、事業所で出来る範囲を十分に説明した上で、御家族と共に考え支援していくという姿勢を持ち取り組んでいる。	入所者の状況の変化に応じ、ご家族から再度確認をとり、医師、看護師と話し合います。事業所での看取りの場合、夜間の勤務者の不安解消のため、「変化があれば連絡を…」と指示するなど、研修や指導に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成すると共に看護師から指導も取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃からの意識を高めていくよう話し合っている。実際に災害時において課題となった部分に対し、身近な所から改善できる部分については改善し、その他、地域との協力体制が整えられるよう民生委員、自治会等に相談させていただいている。	防災訓練は年2回実施。自力での避難が困難な方が多く特に夜間時は課題です。隣の小規模多機能型施設と協力し合同防災訓練を計画中です。	避難に際して地域との連携を深めるため、地域で行う防災訓練への参加が求められています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生き方を理解し、その方に合った言葉選び、関わりを行っている。こちらが上の立場であるような姿勢や、子供をあやすような対応になっていないか常に確認し合い、利用者は、人生の先輩である事を理解しケアに取り組んでいる。	利用者は人生の先輩であるとして、上から目線の声かけ、言動を戒めています。特に「排泄」面では気づかいをし「トイレに行こう」「濡れている」などの言葉がけに注意するよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたい事や思いは可能な限り実現出来るよう努めている。また、もう歳だからとあきらめている部分や、わがままは言うてはいけないと思わせてしまわぬよう、こちらから誘ってみたりすることで、想いを大切にできることを感じられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらの憶測や都合で判断するのではなく、利用者それぞれの1日の過ごし方を日頃から把握し、その日の本人の様子を感じ取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を選び、いつまでも好きな物を身に着けられるよう支援している。起床時には必ず洗顔・整髪を支援する等、普段から身だしなみにも意識を持っているよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	必ずしもやらなければいけない等といったプレッシャーを与えてしまうのではなく、「あなたがいてくれるから助かる」「ありがとう」という感謝の気持ちを常に伝え、個々の得意なことや、まだ残されている生活の知恵を最大限に引き出せるよう支援している。	お米、みそ等はグループ仕入れ、日常の食材は主にネットスーパーを利用しています。配膳、片づけは2割程度の方が自発的に手伝っています。嚥下不良の方にはペースト食、キザミ食等を用意しています。食器は入前に使用されていたものを使うことができ、誕生日には希望のメニューを取り入れるなど個別対応をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	規則的な時間帯や栄養バランスばかりに捉われるのではなく、本人の状況を見ながら食べなくなる、飲みたくなるような声かけや関わりを探り、個々のタイミングに合わせた支援が行えるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況や口腔状態に合わせた支援を行っている。ただ口腔ケアを行うだけではなく、口腔内の清潔保持が味覚や気持ちの部分にどのような影響が考えられるか、職員自身がよく理解していく事にも意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを確認していく上で、時間帯だけではなく、ふとした時の仕草や言動にも注意を向け、本人が尿意・便意を感じているタイミングを探りながら支援を行っている。それらを把握することで、精神的にも負担が少なく排泄が済ませるよう努めている。	事業所では、日中の布パンツ使用を奨励しており、入所時より改善が見られています。尿意時の言動のチェック、食事前のトイレ誘導等の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼るのではなく、日頃からこまめな水分補給・腹部マッサージ等行い、出来る限り自然排便が行えるよう支援している。また、個々の排便パターンを把握し、それぞれに合った対応が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	こちらの都合だけで決めてしまうのではなく、「お風呂に入りたい」と思えるような声かけや、入浴の時間が待ち遠しくなるような関わりを行えるよう努めている。	入浴時間は、日中であれば、随時できるようにしています。入浴キライは、めんどくさがり主因で、これを克服できる声かけを考えて実行。入所者との密接な関係づくり、適切な誘導で支援を続けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や夜間の睡眠状況に合わせて、日中においても休息の時間を設けている。常に同じ明るさの場所で過ごすのではなく、午前中は日の光をたくさん注ぎ、午後からは徐々にカーテンを閉めるなどして、入床への環境整備にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況について看護師と共に確認し、状況変化を常に追えるよう努めている。また、新しい薬が処方されるなど何か変化がある場合、状況に応じて御家族にも連絡している。気になる事がある場合には主治医に必ず相談し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなものを探り、共に楽しむ・喜ぶ合う事で、これまでの生活と大差ない生活がここでも送られることを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った見物がある所へ行けるよう企画を立てる、御家族の協力を得て配偶者等のお墓参りに行くなど、日常的とまではいかないが、可能な限り支援できるよう努めている。	近くに、車の入れない遊歩道があり散歩コースで、川沿いには桜並木もあります。また、近くのスーパーやコンビニは、昔馴染みとの出合いの場のような感じです。袋井、福田は夏の花火大会が有名で、事業所から見る事が出来、入所者の楽しみの一つです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かける際、支払い時には本人自らの手で現金が渡せるよう支援している。また、こちらできちんと預かっていることを伝え安心して頂けるよう、金銭出納帳等を確認してもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望と共に、御家族やご友人の方にも了解を得いただき電話連絡等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除機の音、野菜を切る音など、多少の生活音は必要ではあるが、職員の足音や声の大きさには十分注意を払い、不快になる音は避けるようにしている。また、室内温度設定や光の強さにも気を配り、居心地の良い空間作りに努めている。	新入所者の加入で早くなじめるよう居間のテーブルの位置や席順を変えたりします。ソーラパネル、LED照明の導入で雰囲気づくりを変えるなどの工夫をしています。そして共用空間ではグループ理念の「ゆっくり静かに動くこと」に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間におけるテーブル席については、それぞれ座る位置を設定しており、ここが自分の居場所であることが感じられるようにしている。また、和室も活用し、のんびりと一人の時間を過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内の際、居室で使用する家具や寝具等に関しては、なるべく使い慣れたものを持ってきていただくよう説明し、馴染みのある物に囲まれ安心できる環境作りに努めている。	居室には、現役時代の活躍写真やお孫さんの写真などが飾られ、入所者の人生の一端を見せてくれています。「最近、馴染みの品の持ち込みが少なくなった、これも家族の風潮、気質の変化」という意見もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をすべて取り除くのではなく、多少の段差を残しておくことで生活の中での筋力維持が図れるような作りとなっている。個人の食器類については手の届くところに置き、生活感を失くさないよう工夫している。		